

**宮 城 県 の 経 済 動 向**  
**平成 2 6 年 第 3 四 半 期**  
**( 7 月 ~ 9 月 期 )**

# I 本県の経済概況

## 平成 26 年第 3 四半期（7 月～9 月期）の宮城県経済の動向

一部に弱い動きがみられるものの、東日本大震災（以下「震災」という。）からの回復が緩やかに続いている。

- ・生産：震災の影響があるなかで、低下傾向である。
- ・住宅投資：増加傾向の動きとなっている。
- ・公共投資：高水準で推移している。
- ・個人消費：持ち直しの動きとなっているが、一部に弱い動きがみられる。
- ・雇用：求人倍率は高水準で推移している。
- ・企業倒産：小康状態が続いている。

### 生産

鉱工業生産指数は、前期比が 2 期連続の低下となった。前年同期比は 4 期ぶりの低下となった。

大口電力使用量は、前年同期比が 10 期ぶりの低下となった。

### 住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は 5 期連続の減少、貸家は 11 期連続の増加、分譲住宅は 2 期連続の増加となった。

全体では 13 期連続の増加となった。

### 公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同期比は、国は 2 期ぶりの減少、県は 3 期ぶりの減少、市町村は 2 期ぶりの減少となった。

全体では 3 期ぶりの減少となった。

### 大型小売店

大型小売店販売額（百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較）は、前年同期比が 2 期ぶりの増加となった。飲食料品は 6 期連続の増加、衣料品は 2 期連続の減少、身の回り品は 2 期連続の減少となった。

### 自動車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が 2 期連続の減少となった。車種別の前年同期比は、普通車は 2 期連続の減少、小型車は 4 期ぶりの減少、軽自動車は 2 期連続の減少となった。

### 物価

仙台市消費者物価指数（平成 22 年＝100）は、総合指数は前期比が 7 期連続の上昇となり、前年同期比は 6 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は前期比が 2 期連続の上昇となり、前年同期比は 6 期連続の上昇となった。

### 雇用

有効求人倍率（原指数）は、前年同期差が 18 期ぶりの低下となった。新規求人倍率（原指数）は、前年同期差が 3 期連続の低下となった。

### 企業倒産

企業倒産は、件数は前年同期比が前年同水準となった。負債総額は前年同期比が 3 期ぶりの増加となった。

## Ⅱ 主な指標の動き

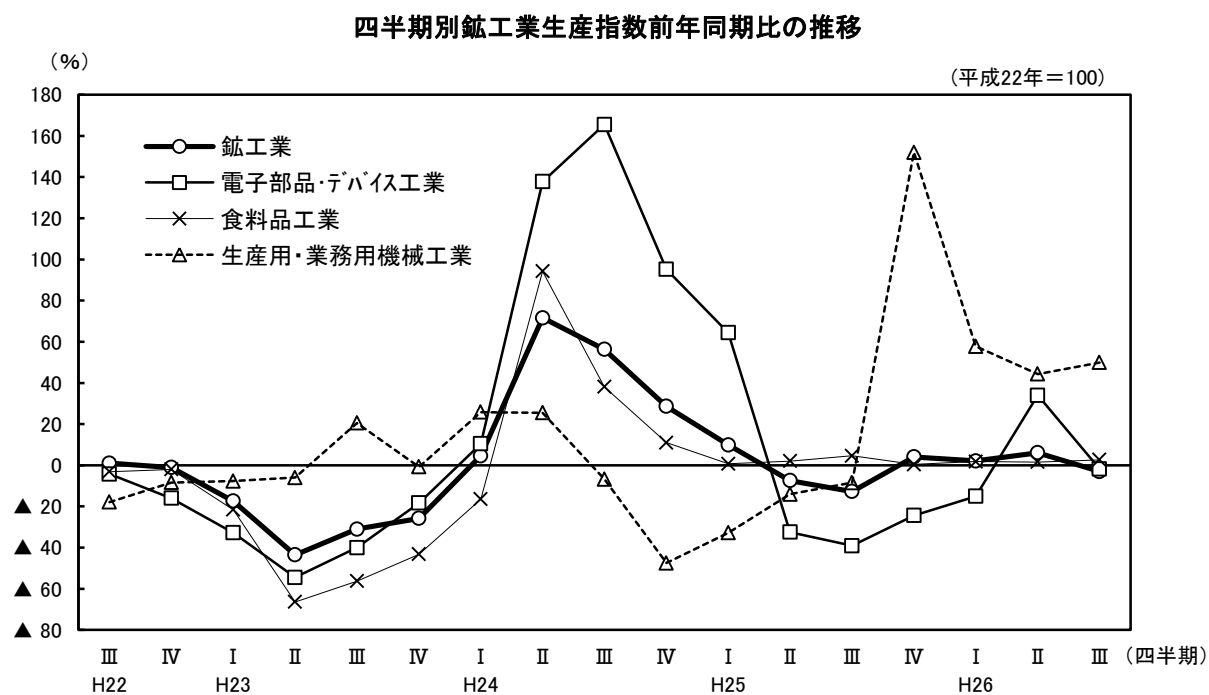
### 1 生産

#### (1) 鉱工業生産指数

平成26年第3四半期(7月～9月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は88.1(平成22年=100)で、前期比が10.7%の低下となり、2期連続の低下となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は前期比が23.6%の低下となり、2期連続の低下となった。食料品工業は前期比が3.6%の低下となり、3期ぶりの低下となった。化学、石油・石炭製品工業は前期比が12.3%の低下となり、3期ぶりの低下となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前期比が9.4%の低下となり、3期ぶりの低下となった。生産用・業務用機械工業は前期比が1.3%の上昇となり、2期連続の上昇となった。

前年同期比(原指数での比較)では3.0%の低下となり、4期ぶりの低下となった。

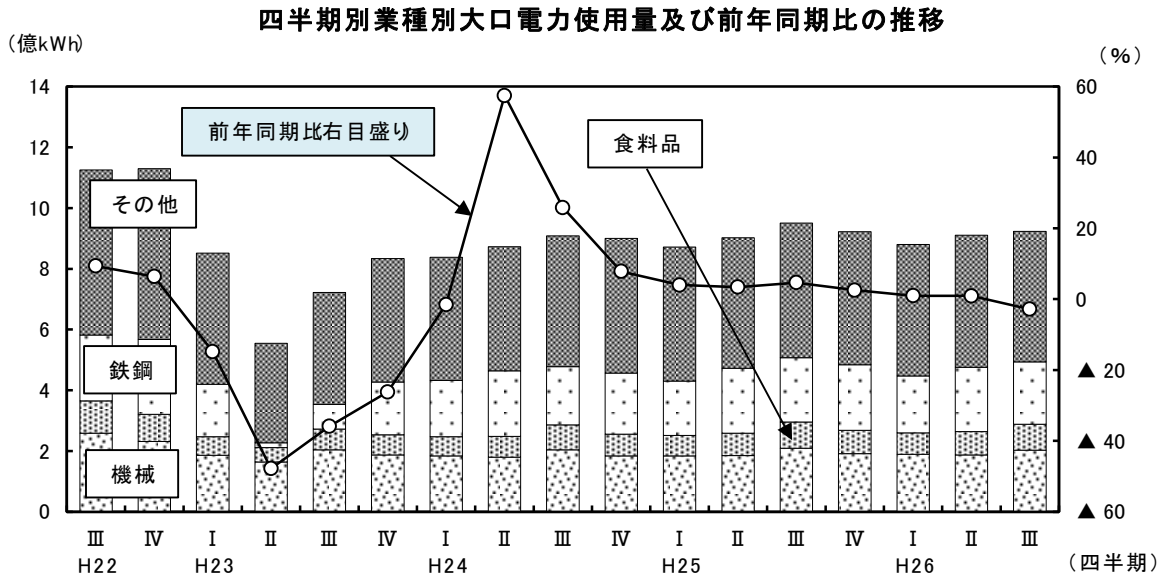


(資料:宮城県統計課)

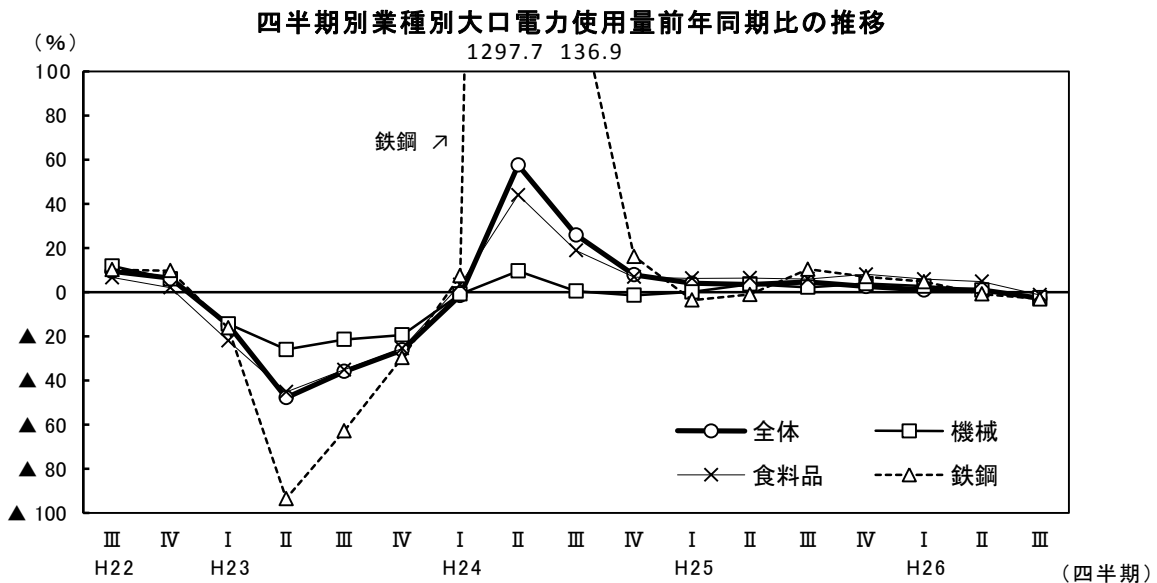
## (2) 大口電力使用量

平成26年第3四半期(7月～9月期)の大口電力(契約電力500KW以上)使用量は9億2,346万KWhで、前年同期比が2.8%の低下となり、10期ぶりの低下となった。

主要業種別にみると、鉄鋼分野は前年同期比が3.1%の低下となり、2期連続の低下となった。機械分野は前年同期比が2.6%の低下となり、7期ぶりの低下となった。食料品分野は前年同期比が1.3%の低下となり、11期ぶりの低下となった。



(資料:(株)東北電力宮城支店「業務資料」)



(資料:(株)東北電力宮城支店)

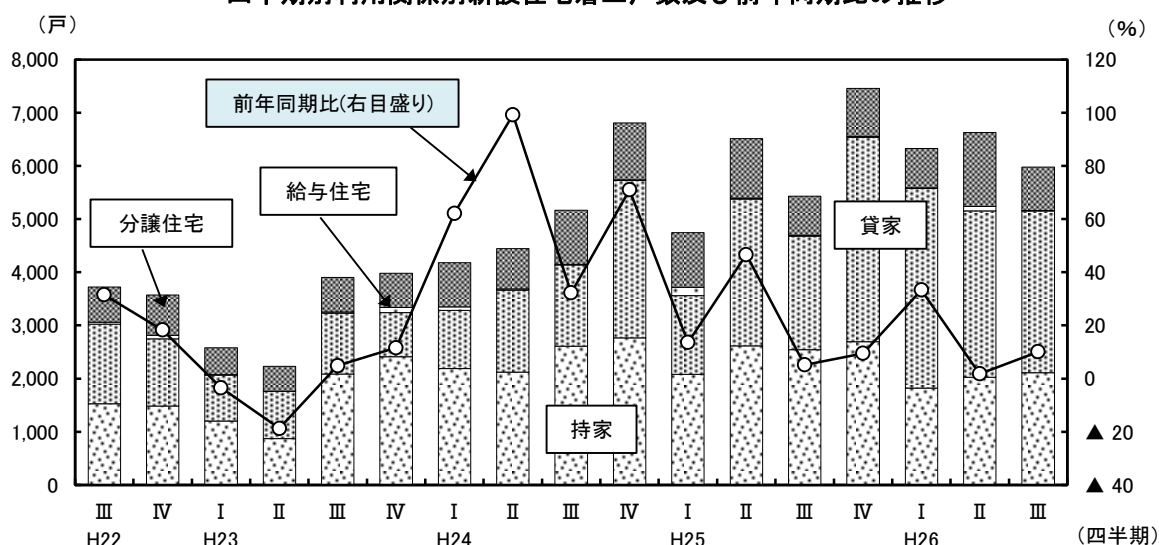
## 2 建設投資

### (1) 新設住宅着工戸数

平成26年第3四半期(7月～9月期)の新設住宅着工戸数は5,981戸で、前年同期比が10.1%の増加となり、13期連続の増加となった。

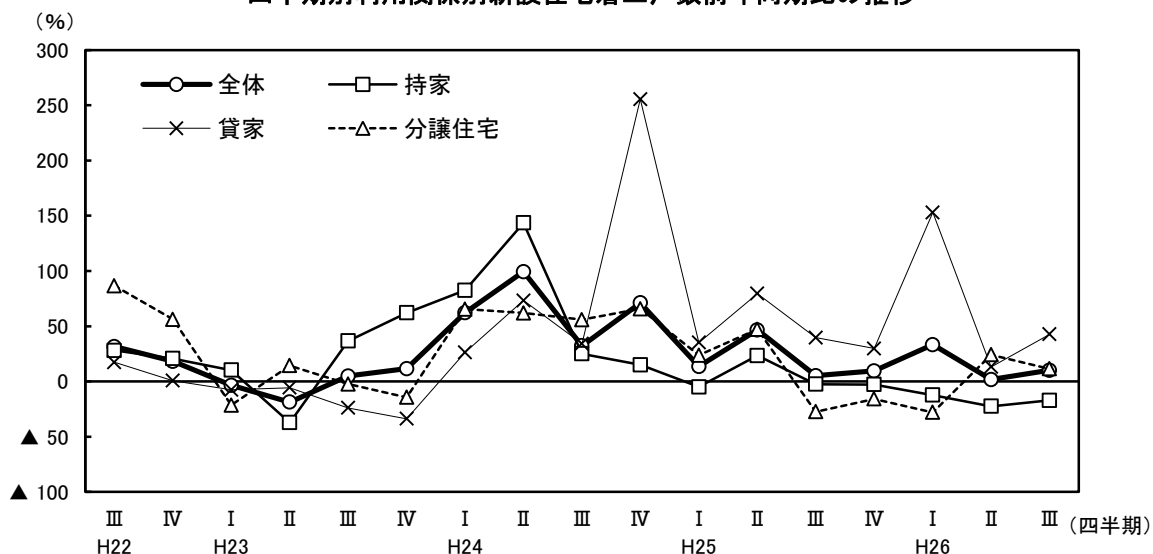
利用関係別にみると、貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が42.7%の増加となり、11期連続の増加となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が11.4%の増加となり、2期連続の増加となった。持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が17.1%の減少となり、5期連続の減少となった。

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数及び前年同期比の推移



(資料:国土交通省)

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数前年同期比の推移

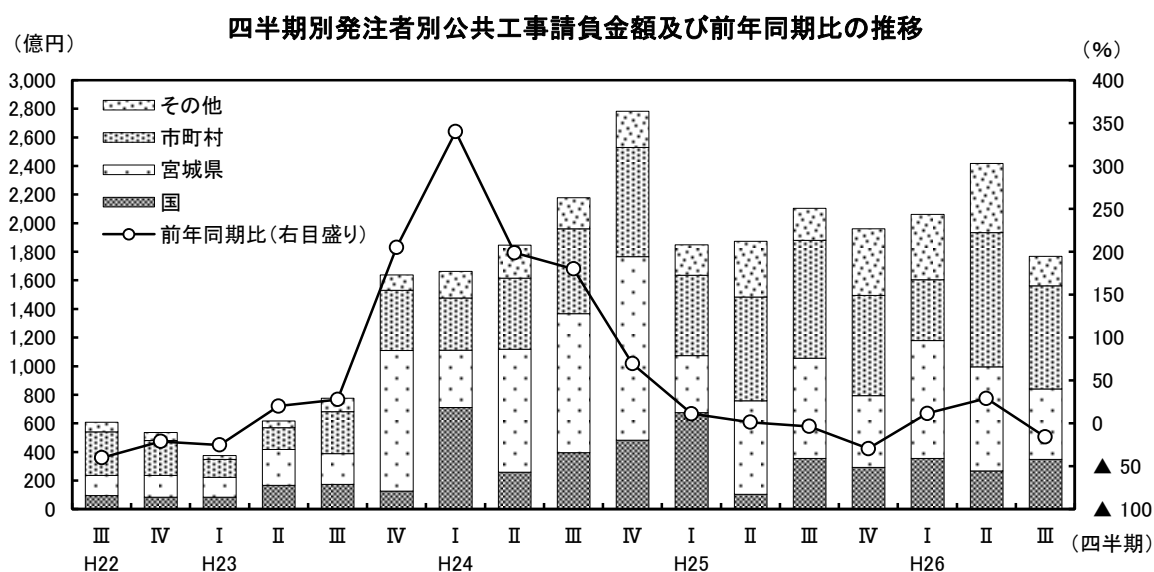


(資料:国土交通省)

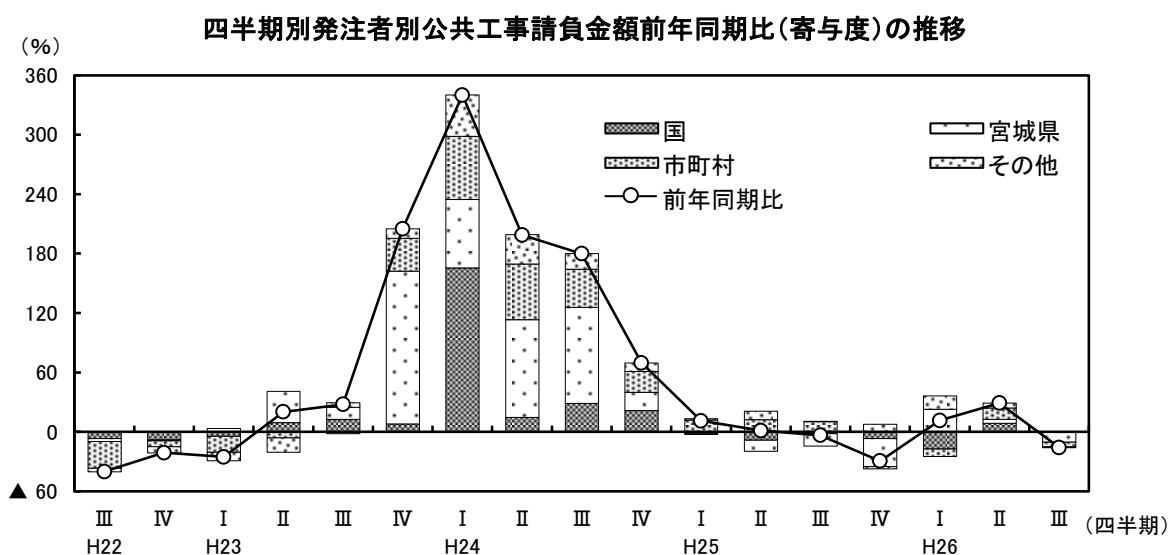
## (2) 公共工事請負金額

平成26年第3四半期(7月～9月期)の公共工事請負金額は1,769億円で、前年同期比が15.9%の減少となり、3期ぶりの減少となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が1.7%の減少となり、2期ぶりの減少となった。宮城県は前年同期比が29.9%の減少となり、3期ぶりの減少となった。市町村は前年同期比が12.2%の減少となり、2期ぶりの減少となった。



(資料: 東日本建設業保証(株))



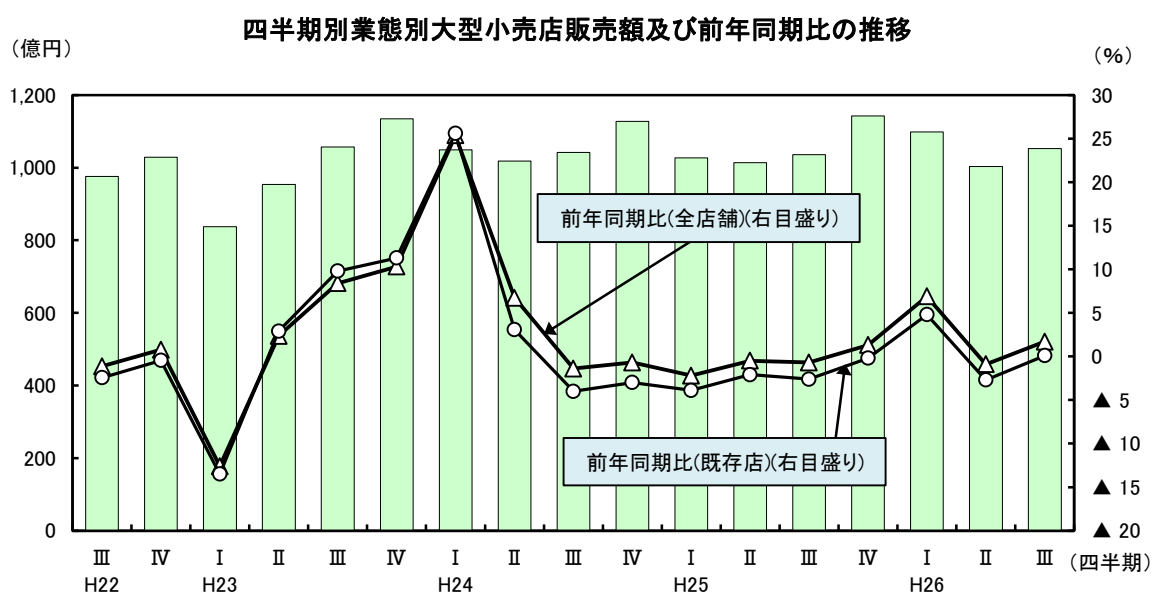
(資料: 東日本建設業保証(株))

### 3 個人消費

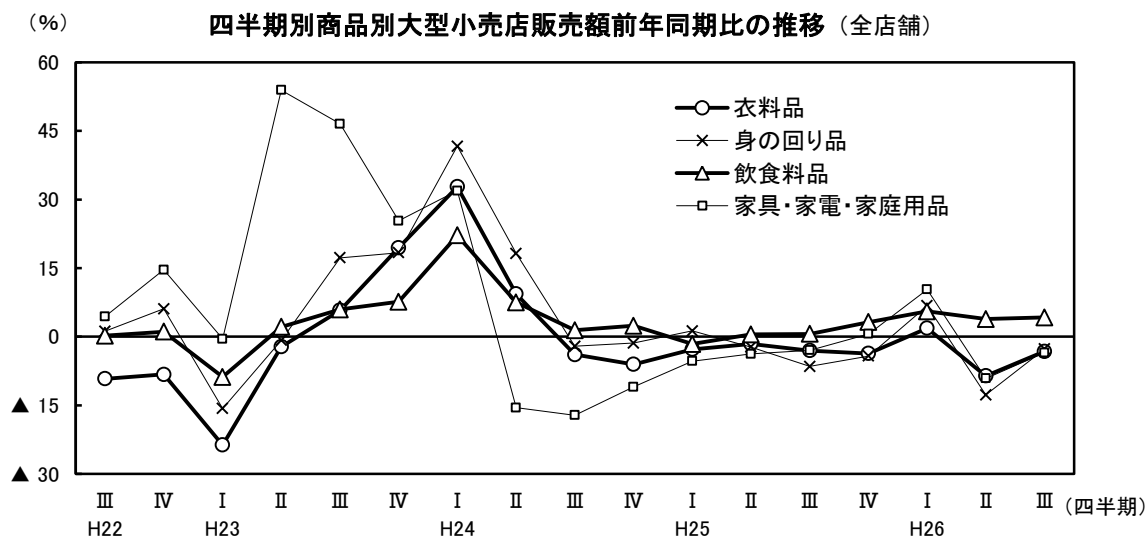
#### (1) 大型小売店販売額

平成 26 年第 3 四半期 (7 月～9 月期) の大型小売店販売額は 1,051 億 9,800 万円で、前年同期比 (既存店比較) が 0.1% の増加となり、2 期ぶりの増加となった。全店舗比較の前年同期比は 1.7% の増加となり、2 期ぶりの増加となった。

商品別にみると、飲食料品は、前年同期比が 4.2% の増加となり、6 期連続の増加となった。衣料品は、前年同期比が 3.2% の減少となり、2 期連続の減少となった。身の回り品は、前年同期比が 2.7% の減少となり、2 期連続の減少となった。家具・家電・家庭用品は、前年同期比が 3.5% の減少となり、2 期連続の減少となった。



※平成 21 年 4 月から宮城県の業態別数値は秘匿となっている。  
(資料: 東北経済産業局)



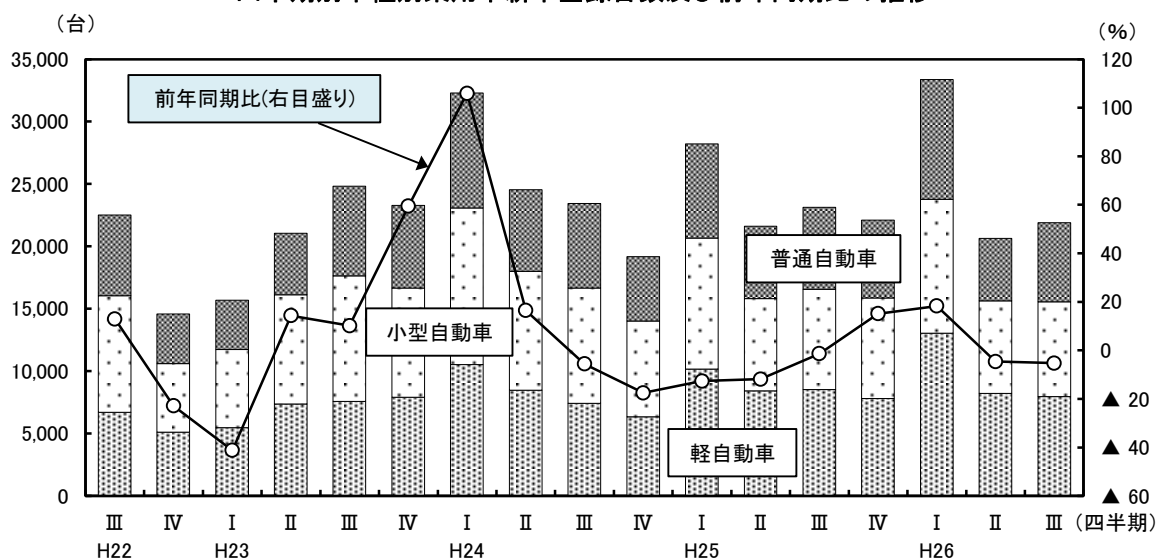
(資料: 東北経済産業局)

## (2) 乗用車新車登録台数

平成26年第3四半期(7月～9月期)の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は2万1,897台で、前年同期比が5.3%の減少となり、2期連続の減少となった。

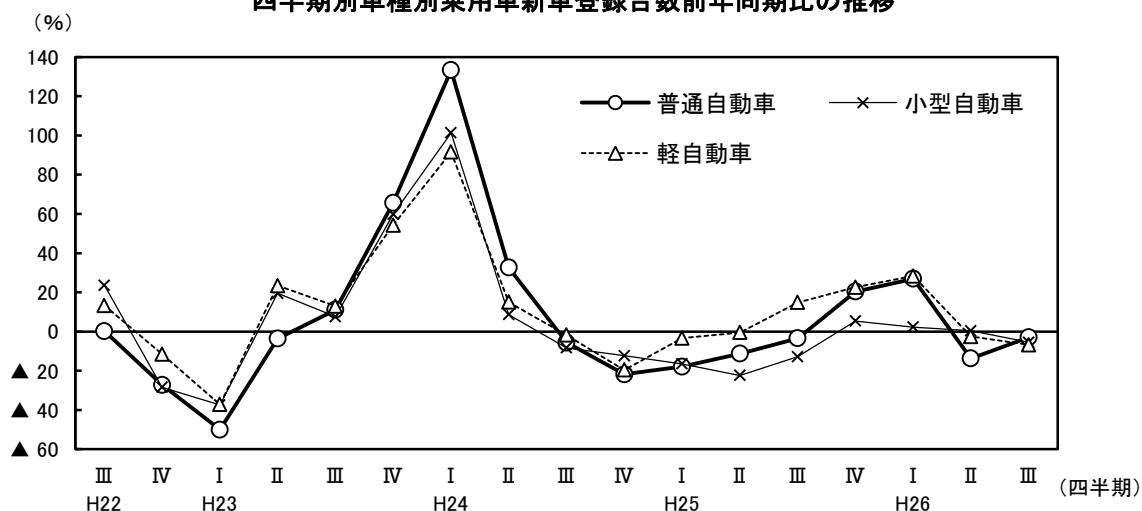
車種別にみると、普通車は前年同期比が3.0%の減少となり、2期連続の減少となった。小型車は前年同期比が5.5%の減少となり、4期ぶりの減少となった。軽自動車は前年同期比が6.8%の減少となり、2期連続の減少となった。

四半期別車種別乗用車新車登録台数及び前年同期比の推移



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)

四半期別車種別乗用車新車登録台数前年同期比の推移



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)

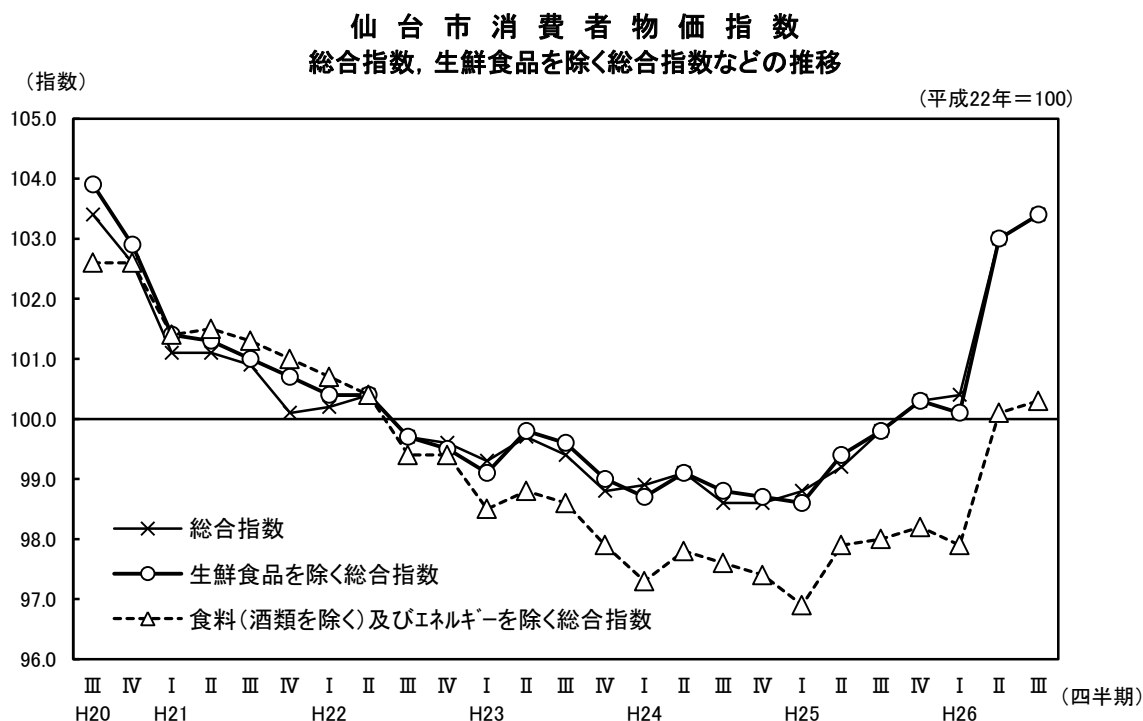


## 4 物 価

### 消費者物価指数

平成 26 年第 3 四半期(7 月～9 月期)の平均仙台市消費者物価指数(平成 22 年=100)は、総合指数は 103.4 で、前期比が 0.4%の上昇となり、7 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 103.4 で、前期比が 0.4%の上昇となり、2 期連続の上昇となった。また、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 100.3 で、前期比が 0.2%の上昇となり、2 期連続の上昇となった。

前年同期比では、総合指数は 3.6%の上昇となり、6 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 3.6%の上昇となり、6 期連続の上昇となった。また、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 2.3%の上昇となり、6 期連続の上昇となった。



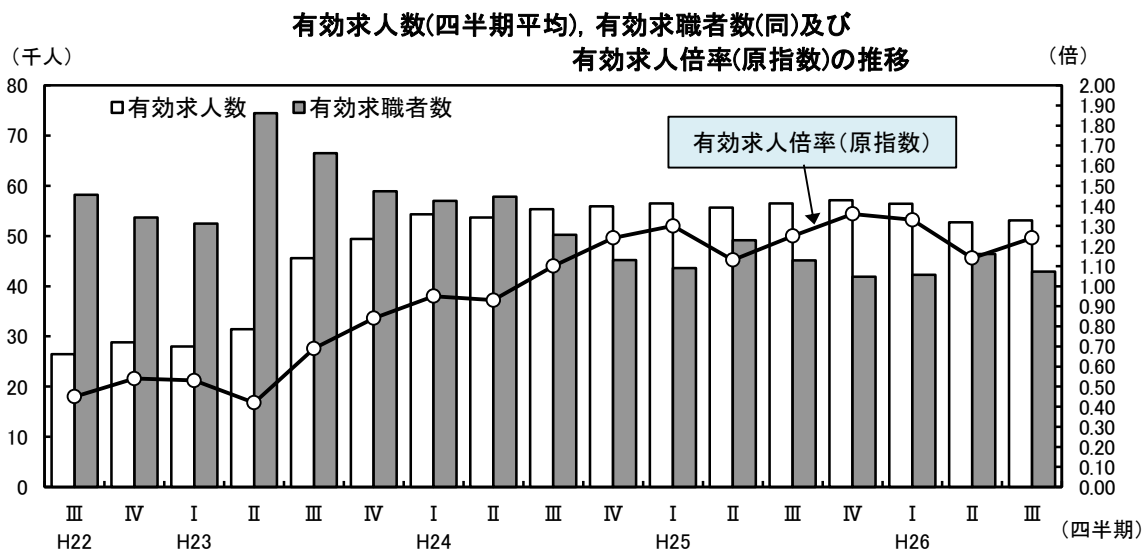
(資料:宮城県統計課)

## 5 雇 用

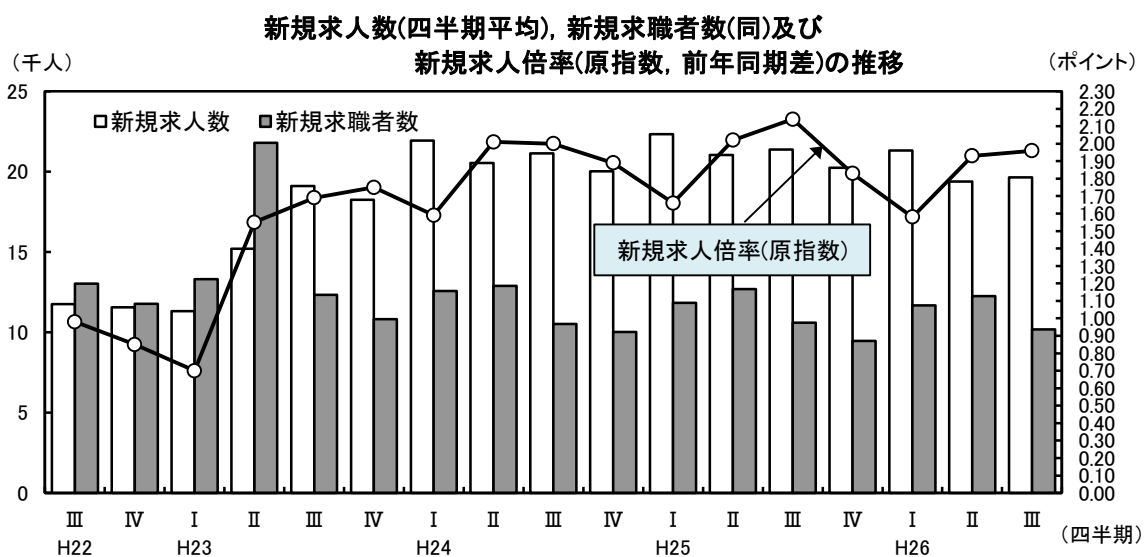
### 有効求人倍率及び新規求人倍率

平成 26 年第 3 四半期(7 月～9 月期)の有効求人数(月平均値)は 5 万 3,124 人で、前年同期比が 6.0%の減少となった。有効求職者数(同)は 4 万 2,882 人で、前年同期比が 5.0%の減少となった。有効求人倍率(原指数)は 1.24 倍で前年同期差は、0.01 ポイント低下し、18 期ぶりの低下となった。

新規求人数(月平均値)は 1 万 9,641 人で、前年同期比が 8.1%の低下となった。新規求職申込件数(同)は 1 万 177 件で、前年同期比が 3.9%の低下となった。新規求人倍率(原指数)は 1.93 倍で前年同期差は、0.09 ポイント低下し、3 期連続の低下となった。



(資料:宮城労働局)



(資料:宮城労働局)

## 6 倒産

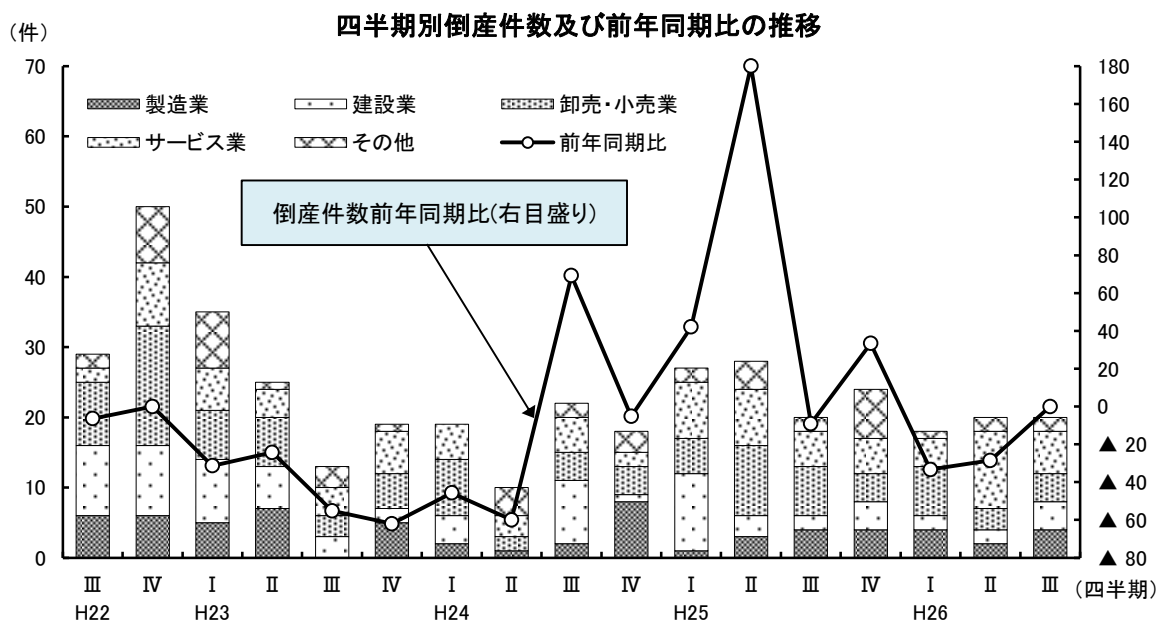
### 企業倒産

平成26年第3四半期(7月～9月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は20件で、前年同期比が前年同水準となった。

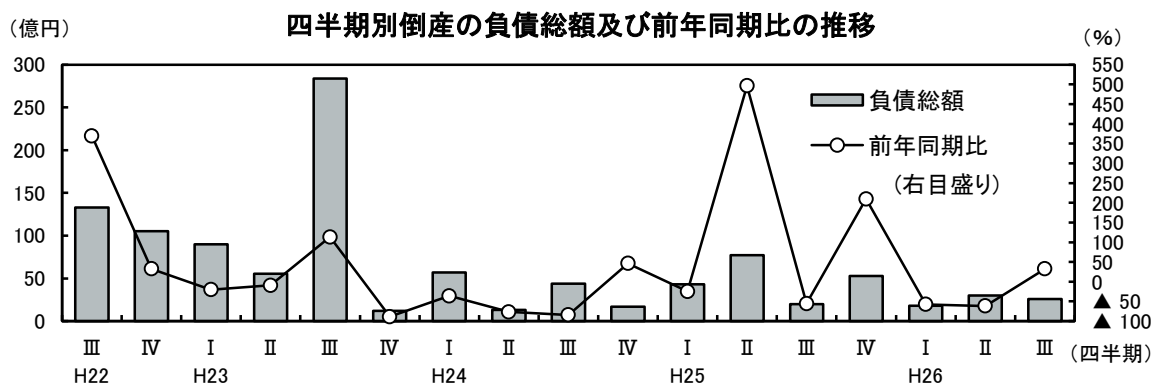
負債総額は25億9,200万円で、前年同期比が32.4%の増加となり、3期ぶりの増加となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積)の件数は15件で、3期連続の減少となった。件数の構成比は75.0%で、前年同期より5.0ポイントの低下となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は発生しなかった。



(資料:(株)東京商工リサーチ)



(資料:(株)東京商工リサーチ)